

令和2年度 筑波大学ダイバーシティ推進行動目標

筑波大学のダイバーシティ推進活動は、平成9年に女性教員の有志からスタートしました。その後、全学的に取り組むべき活動へと発展してきました。平成29年には、ダイバーシティ推進の指針としてエグゼクティブ・メッセージを発信しています。特に、エグゼクティブ・メッセージに掲げた以下の[1～4]についてはこれまでも積極的に取り組んできました。さらに本学のダイバーシティ推進のためには、個々の意識を醸成するに留まらず、より具体的な施策を実行していく必要があります。

- [1] ダイバーシティを一層推進し、組織運営や決定に女性が参画し意見が活かされるようにします
- [2] 安心して結婚・子育て・介護ができ、誰もが協力してライフイベントとキャリア形成を両立できるような環境改善と意識改革を推進します
- [3] 企業や研究所など外部機関と連携してダイバーシティ推進に取り組みます
- [4] ダイバーシティ推進とイノベーションの創出を評価します

これらの中で、大学構成員がライフイベントとキャリア形成を両立できるよう環境を整備すること（[2]）は、大学の責務といえます。しかし令和元年度に行われた系長特別補佐による各系の研究環境調査から、これらを両立するのが容易ではない現状が見えてきました。

そこで筑波大学としては更なるダイバーシティ推進を目指して、令和2年度は以下2点について、DACセンターを中心に各系・教育組織・関係部局と連携しながら進めます。

1. ライフイベント期の在宅勤務制度の実施
2. 学童保育に関するニーズ調査の実施と対応準備

今後も引き続き、筑波大学は大学の発展と社会の未来を想い、真摯にダイバーシティ推進に取り組んでまいります。

令和2年3月
筑波大学長 永田恭介